

新学期に向けて

～子ども達・保護者の皆さん及び教職員に伝えたいこと～

もうすぐ夏休みも終わり、多くの学校が新学期を迎えます。

教育の目的は「人づくり」であり、私は、県教育長として、熊本地震からの復旧・復興と併せ、子ども達の夢や希望を育む教育に学校や教職員等と力を合わせて、誠心誠意、全力で取り組んできているつもりです。

ただ、組織全体としてはその思いが十分共有化できておらず、教職員の不祥事をはじめ、たくさんの解決しなければならない課題も多いのが現状です。

今年度の5か月を振り返り、本日は、新学期に向けての私の思いを3点に絞って、子ども達、保護者の方々、県民の皆様、すべての県教職員に伝えさせていただきたいと思っています。

一つ目です。

5月に県北の県立高校3年女子生徒が、自ら命を絶つという痛ましい事案が起きました。

将来のある尊い命が失われたことは、本当に残念であり悲しみに堪えません。

改めてご冥福をお祈りするとともに、心からお悔やみを申し上げます。

ご遺族の深い悲しみについては、察するに余りあるところです。

ご遺族の事実を知りたいというお気持ちに寄り添いながら、現在、熊本県いじめ防止対策審議会委員の皆様方に、丁寧な聴き取り調査等を重ねていただいています。

今後も調査・審議を継続し、年度内には調査で明らかになった事実関係と再発防止に向けた提言を取りまとめていただく予定です。

教育委員会としましても、生徒が匿名でスマートフォン等からいじめ等の相談を通報できる「いじめ匿名アプリ」の活用や、ストレス対処教育等、再発防止に、引き続き全力で取り組んで参ります。

併せて、自分や相手を大切にする心、すべての命を大切にする心、自然に対する畏敬の念など命の教育は、教育の根幹に据えられるものだと考えています。

今後とも、命の教育について、しっかりと取り組んで参ります。

二つ目です。

今年度に入り、学校徴収金の横領など教職員の不祥事が相次ぎ、6件の懲戒処分を行いました。平成23年度以降、減少傾向でしたが、今年度に入り教職員が逮捕される事案が相次ぐなど、まさに非常事態だと考えています。

6月20日にすべての県教職員に向けて、決して他人ごとと思ってはならないと私の思いをメッセージとして届けましたが、一人一人の心には届いておらず、その直後も、以前から盗撮を行っていた教員が逮捕されるという事案が発生しました。

不祥事は、子ども達をはじめ保護者の方々、県民の皆様の信頼や期待を大きく裏切るものです。中でも、6件中3件は児童福祉法違反や県迷惑行為等防止条例違反等のわいせつ事案で、教職員という以前に人間として決して許すことができません。

自分が良く知っている先生、教え導いてくれていた先生、信頼していた先生が不祥事を起こしたということが、子ども達の心にどう影響するだろう、そう思うといったたまれない気持ちになります。

県教育長として、子ども達、保護者の方々、県民の皆様に改めて、心から深くお詫びを申し上げます。

不祥事が起きる度に、校長や教育事務所長を集めた臨時の会議を開催し、通知を繰り返し発出するなどし、服務規律の保持について厳しく指示しています。

今後とも、再発防止に向けて、市町村教育委員会、学校等と一緒に組織全体の問題として取り組んで参ります。

他方、管理や指導を厳しくするだけで本当に良いのか、という思いもあります。ほとんどの教職員は、昼夜を問わず、子供たちの成長を祈りながら、心を尽くして教科指導や生徒指導に当たっていることを私は知っています。

そのため、長時間労働等、教職員の働き方などの課題もあります。

校長をはじめとした管理職には、一人一人の教職員が、仕事はもちろんのこと家庭などプライベートの部分も含めて、悩みや課題を抱えていないのか把握に努め、助言や指導に力を注いで欲しいと思っています。

「悪い話ほど早く上げよう」、とはどこの組織でも必ず言うことですが、日頃からのコミュニケーションが大事で、風通しの良い職場づくり、悪い話が上がりやすい環境づくりがとても大切だと考えています。

各学校では、新学期が始まる際の職員会議等で、今一度、不祥事根絶に向け、話し合いの機会を持っていただき、すべての教職員が初心に帰り、自ら、自律的に風通しの良い職場づくりや職場改革に取り組んでほしいと思っています。管理職の皆さんには教職員自らが進める取組みと一緒に支援して欲しいと考えています。

教職員という仕事は、大変な仕事で苦勞も多いですが、それだけにやりがいも大きく、子供たちの成長と共に、自分も成長できる素晴らしい仕事であると思っています。

小・中・高校時代、当時お世話になった先生の言葉に勇気づけられ、その後の人生でも、「忘れられない先生からの一言」を心に持っておられる方も少なくないと思います。

子ども達の未来を託される教職員の役割や責任は重いものがあります。
教職員には、今一度、初めて「先生」と呼ばれた時のことを思い出し、謙虚な心
で子ども達と接して欲しいと考えています。

県民の皆様からの信頼回復への道のりは遠く険しいものになると思いますが、
二度とこのような不祥事を起こさないよう、組織全体で、そして全教職員と共に力
を合わせて取り組んで参ります。

三つ目ですが、もうすぐ新学期が始まります。

子ども達が、悩みなどを抱え、学校に気持ちが向かないなど不登校の増加が懸念
されます。また、自殺対策白書の資料でも指摘されていますが、8月下旬から9月
上旬の夏休み明け前後に、全国的にも子ども達の自死が急増する傾向があり、今年
も一層の配慮をしていただくよう、注意喚起の通知を出しているところです。

子ども達が相談しやすい雰囲気づくりや子ども達からのSOSをキャッチでき
る環境づくりに更に努めていきます。

児童生徒の皆さん、悩みがある時は自分一人だけで抱え込まず、不安や悩みを身
近なご家族、先生、友達などにぜひ相談してください。

決して、一人で悩まないでください。

あなたの力になれる人は、必ずいます。

すべての教職員、保護者の皆様、地域の方々には、くれぐれも子ども達の見守り
をしっかりとお願いいたします。

子ども達は社会の宝です。大切な存在です。

すべての子ども達が、それぞれに自分の夢や希望を描き、生きることの喜びを感
じながら成長していけるよう、関係者一丸となって、引き続き全力で取り組んで参
ります。

平成30年8月16日

熊本県教育長

宮尾 千加子